

マレーシアのカトリック教会におけるインドネシア語聖書とミサ  
Indonesian Missale and Bible in Catholic Church of Malaysia

李光平 (上智大学)  
LEE Kwang Pyung (Sophia University)

ローマ・カトリック教会では 1965 年からの第二バチカン公会議以降、それまでのラテン語から各国語によるミサが認められるようになり、インドネシアでもインドネシア語ミサ典礼書が認可され、インドネシア語によるミサが全国で執行されるようになった。そのインドネシア語のミサ式文と聖書朗読で用いられるインドネシア語共同訳聖書は国境を越え、マレーシアのカトリック教会でもインドネシア語とマレーシア語のあいだで違いのある語彙を言い換えながら「マレーシア語」の典礼として使用された。

マレーシアのカトリック人口は総人口の約 100 万人と総人口の 3%ほどではあるが、マレー半島部では華人やインド人が多く、英語のほかに中国語あるいはタミル語でミサを捧げており各言語ごとに共同体が形成されている。マレー語で信仰を实践するカトリック信者は主にボルネオ島部に集中しているほか、マレーシアに移住してきたインドネシア人カトリック信者も「マレーシア語」のミサに参加する。

インドネシア語のミサ式文と聖書を使用していたマレーシアのカトリック教会であったが、2023 年 7 月にマレーシアとブルネイ、シンガポールの典礼委員会によって、マレーシアで刊行されているボルネオ版聖書(Alkitab Versi Borneo)をマレー語版のミサで使用する聖書として採用し、さらにマレーシア語版のミサ典礼書を作成することを決定した。イスラーム国家マレーシアのなかで「マレー語」がキリスト教で使用することに意義が唱えられ、イスラーム以外には使用するべきでないとされた語彙の代替案を内務省に考案させたほか、神を呼ぶことに際し「アッラー」ということばの使用の是非を 2023 年まで 10 年ほど裁判で争っていた。本発表では、マレーシアのカトリック教会でインドネシア語のミサ典礼や聖書などが使用されていることについて、イスラームを国是とするマレーシア国家とキリスト教との関係性にも注目して報告する。

(文献)

Gazari Basri, *Gerakan Kristian Edisi Ketiga* Penerbit Universiti Kebangsaan Malaysia, Bangi, 2014.